

消防学校だより

令和2年7月号

発行年月日 令和2年7月31日
発行 宮崎県消防学校

★シャッター開放訓練(救助科)

7月1日、文化シャッターサービス株式会社から講師に来ていただきシャッターの種類、構造等について講義を受けた後、実際に重量シャッターの開放訓練を実施しました。

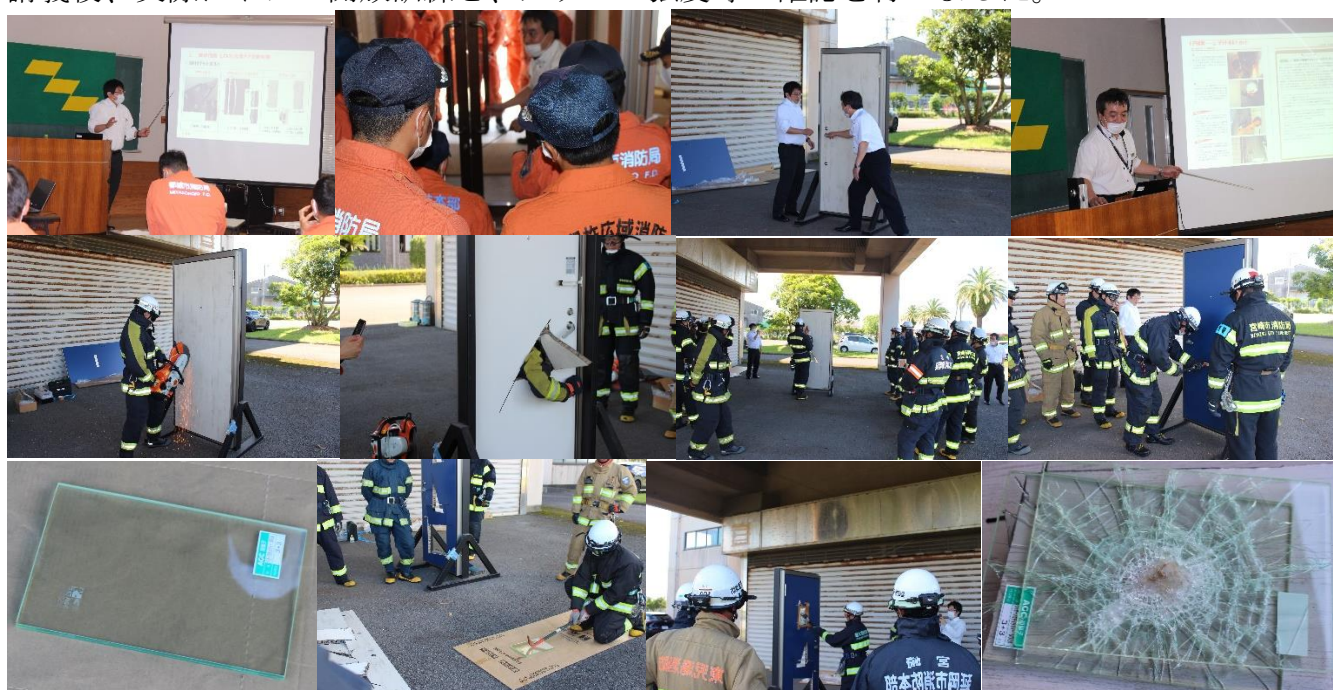
使用するエンジンカッターのブレードの種類によっても切断面に違いがあることの確認と、実際に切断することでシャッターへのエンジンカッターの挿入角度などを再確認できました。



★ドア解放訓練 (救助科)

7月1日、株式会社LIXIL サッシ・ドア事業部九州サッシ・ドア営業部、AGC から講師に来ていただき、ドアの構造や施錠器具の構造、合わせガラスの強度や破壊方法など、建物へ侵入する場合の解放方法について講義を受けました。

講義後、実際にドアの開放訓練と、ガラスの強度等の確認を行いました。



★エレベータ事故対策(救助科)

7月2日、株式会社 宮崎エレベータサービスから講師に来ていただき、昇降機の構造と緊急時の対応について、消防学校内の訓練塔に設置してある施設を利用して研修を行いました。

地震時など、エレベータ内への閉じ込め事故は度々発生する事案であるため、しっかりとした対策が必要です。



★電気事故対策(救助科)

7月2日、九州電力送配電株式会社から講師に来ていただき、電気事故対策を実施しました。

電気は我々の生活に欠かすことのできない重要なインフラであり、県内の至る所に電柱が設置され網の目のように電線が張り巡らされています。事故発生時、安全な救出活動が行える様に訓練を行いました。



★電気自動車事故対策(救助科)

7月6日、株式会社日産サテオ宮崎から講師に来ていただき、電気自動車事故対策を実施しました。

現在の自動車の進歩はめまぐるしく、自動運転機能の付いたものまであり、しっかりと各車種の諸元を理解しておかなければ安全な救出活動は出来ません。そこで今回、電気自動車についてわかりやすく解説していただきました。



★外傷アプローチ・交通救助訓練(救助科)

7月7日、外傷アプローチを踏まえた交通救助訓練を実施しました。

交通救助事案において要救助者の容体を的確に観察し、状態に応じた救出方法を選定することはとても重要なことです。

交通救助も、自動車の進化により様々なタイプの車種が有り、各種車両構造の把握もしていかなければなりません。

救助隊員には、救急の知識と交通救助技術をしっかり身に付けて救助活動にあたっていただきたいと思います。



★水難救助訓練(救助科)

7月8日、9日で水難救助訓練を実施しました。

初日は、陸上と水中における活動環境の違いや、水圧が身体におよぼす影響などを座学で行った後、消防学校プールで3点セットを使用した基礎的な訓練を実施し、2日目には宮崎海洋高校の潜水プール(5m)で素潜り潜水、潜水資器材体験を行いました。

潜水土の救助科学学生(甲斐一馬学生(延岡市)、土井智裕学生(延岡市)、武田浩樹学生(串間市)いずれも現役の潜水土)には支援教官として訓練支援にまわってもらいました。



★ドローン取り扱い研修(救助科)

7月10日、ライフクリエイト宮崎株式会社から講師に来ていただきドローンを飛行させる上で必要となる法的な事柄や、現在のドローンの進化など、災害時に活躍の場を広げているドローンについて学習した後、実機を使用し飛行訓練を行いました。



★NBC 災害対応訓練(救助科)

7月10日、宮崎市消防局北消防署東分署にてNBC 災害対応訓練を実施しました。

高度救助小隊の 仁田 脇 健 司令補に講師をお願いし、各市町村の実状を踏まえたNBC 災害における消防機関の対応能力を充実、向上させる目的で実施して頂きました。

座学の後、防災センター施設を災害発生場所と想定した訓練を実施し、進入統制ライン・除染ラインの設定、要救助者の救出など実践的な訓練を行いました。



★ブリーチング訓練(救助科)

7月13日、消防学校屋外訓練場に設置した訓練施設にてブリーチング訓練を行いました。

震災対応の訓練は緊急消防援助隊として派遣される隊員の訓練というイメージがあるかもしれませんが、本県が被災した際に一番速く住民の救助を行うのは地元の消防(局)本部です。

安全、確実、迅速に人命救助が出来る様に訓練に取り組みました。



★チェーンソー取り扱い訓練(救助科)

7月14日、宮崎機械有限会社、宮崎中央森林組合から講師に来ていただき、チェーンソー取り扱い訓練を実施しました。午前は、チェーンソーの構造や目立てのやり方を学び、午後は現地訓練として国富町嵐田の山林で伐倒等を行いました。



★航空消防(救助科)

7月15日、県防災救急航空隊の立山 貴昭 隊長を講師に招き、防災救急ヘリの構造と基礎知識、主要な装備品や、防災救急ヘリ要請のポイントや支援時の注意事項など、地上の消防隊として安全に活動するうえで必要となる事を講義していただきました。



★山岳救助訓練(救助科)

7月16日、県防災救急航空隊から 加世田 淳 副隊長、林 崇大 隊員 に講師として来て頂き山岳救助訓練を宮崎自然休養林で実施しました。訓練当日は、まとまった雨の降る絶好の訓練日和でした。

入山は、硫黄谷休憩所からとし、登山途中にヘリのピックアップポイントの説明を受け、昼食を麻島で済ませた後、救助訓練を実施しながら下山しました。

今回の訓練では各学生の共通認識を図るため、作成する倍力システムは3分の1まで、使用する物はプルージックコード、カラビナ、プーリーとの制限をかけ実施しました。



★震災対応訓練(救助科)

7月20日、震災対応訓練を実施しました。

この訓練は、救助科教育の総合訓練との位置づけで実施し、指揮隊、救助隊、安全管理の3班に編制して訓練開始から要救助者の救出完了までを訓練実施時間として連続訓練しました。

当日は、気温も高く長時間に及ぶ活動が、自分自身の体力の限界、疲労が集中力にどう影響するのか、適宜の休息がいかに大切か身をもって体験しました。

被災した現場に侵入できる場所は一カ所のみとして訓練を開始し、指揮本部の設置、活動する現場の環境測定等、実際に必要な手順を踏んで要救助者の救出を行いました。

救出完了後、振り返りを行い20時に訓練を終了しました。



第31期救助科はすべての課業を終え、7月22日(水)に修了しました。

★救助訓練始めました(初任科)

7月10日より初任科生においても降下訓練、登はん訓練、渡過訓練など救助活動に必要な基礎訓練を始めました。

初任科生にとってはロープで降りる事や、12mmのロープをつかみ登ったり渡ったりはもちろん初めての事です。

まだまだ苦戦しておりますが、しっかりと基礎が出来る様に訓練してまいります。



8月の主な行事

- 初任科生実務研修 8月3日(月)～11日(火)まで
- 無線資格取得講習 8月28日(金)
- 第12期予防査察科 8月31日(月)～9月11日(金)まで

宮崎県消防学校

担当:伊豆元 優一(いずもと ゆういち)

電話:0985-56-0555 FAX:0985-56-1475

E-mail:shobou-s@pref.miyazaki.lg.jp